

令和5年度

企業力強化視察・研修

報告書

R5年10月25日(水)～27日(金)

長野・福井

鹿児島木材産業協同組合

企業力強化視察・研修(長野・福井)報告書

今年度の視察・研修は、下記のとおり10月25日(水)から27日(金)にかけて長野・福井において実施いたしました。

参加者は10名で、ご夫婦も2組参加していただくなど親睦を図ることができました。

今回は、立山黒部の開発と観光の歴史について研修するとともに、永平寺の古い木造建築物を視察することができました。

来年度も多くの組合員がご参加できるような視察・研修計画を考えてまいります。

日程表

日程	スケジュール	宿泊地
1日目 (10/25) 水	10:10 鹿児島空港 → → ANA2516 航空機 → → 11:30 中部国際空港 → → 借上バス → → マルハ食堂 (昼食) → → 17:30 大町温泉 借上バス	立山 プリンスホテル
2日目 (10/26) 木	8:00 ホテル → → 借上バス → → 8:30 扇沢 → → 電気バス → → 黒部ダム → → 黒部湖 徒歩 → → ケーブルカー 黒部平 → → ロープウェイ 大観峰 → → トロリーバス 室堂 (昼食) → → 13:50 立山駅 → → 17:30 福井市内ホテル 借上バス	ホテル リバーージュ アケボノ
3日目 (10/27) 金	8:30 ホテル → → 借上バス → → 9:10~11:20 永平寺 → → 徒歩 → → ほっきょ荘 (昼食) → → 12:50 小松空港 借上バス 14:55 小松空港 → → JAL188 航空機 → → 16:05 16:35 羽田空港 → → JAL651 → → 18:25 鹿児島空港	

視察・研修

○ 立山黒部アルペンルート

・ 立山黒部の開発と観光の歴史

立山山岳地帯の観光開発は、昭和27年に富山県が総合開発計画の中で基本計画を策定したことから始まりました。電源開発工事に付随する複数の資材運搬ルートの開発に合わせ、「富山と信濃大町を結ぶ道路建設を核とした立山・黒部・有峰地区における一大循環ルートの構築」が考案され、これを受けた富山県・立山開発鉄道・北陸電力・関西電力の4社が協同して立山黒部有峰開発会社を設立し、一帯の観光開発計画調査を行いました。

昭和33年までに、立山ケーブルカーや立山高原バス道路が完成し、関西電力が黒部ダム建設の資材運搬等のために建設を進めていた大町トンネルも開通。5年後には立山黒部貫光(株)が設立され、富山と長野を結ぶ全線自動車道路を目標として計画が進められました。

昭和41年春には立山黒部貫光(株)により、雄山直下を貫く立山トンネルの掘削工事が始まるが、集中豪雨による運送ルートの崩壊や、50mにも及ぶ破碎帯、毎分63トンにも及ぶ湧水など多くの障害に阻まれ工事は難航。また、自然保護団体の反対により全線自動車道路をあきらめ、大観峰から黒部平まではロープウェイ、黒部平から黒部湖まではケーブルカーで移動する計画に変更。

幾多の困難を乗り越えながら、予定より2年遅れの昭和46年6月立山トンネルバス、立山ロープウェイ、全線地下式黒部ケーブルカーの完成をもって、立山黒部アルペンルートの全線開通が実現しました。

全線開通の翌年、昭和47年には宿泊と駅舎など公共サービス部門を包括したターミナルビルを建設し、立山黒部アルペンルートの全容が整いました。

これにより、立山一帯は人跡未踏の地から国内有数の観光地へと姿を変えました。今日では毎年100万人を超える観光客が訪れ、四季を通じて立山の大自然を楽しめる一大観光地となりました。

・ 黒部ダム建設の経緯

経済の本格的な復興を迎えた戦後日本は、深刻なエネルギー不足に悩まされていた。特に関西地方の長期間に渡る電力使用制限は大きな社会問題となり、大量の電力供給を補う大規模な水力発電の建設が提案された。建設場所としてスポットが当てられたのが豊かな水量と大きな落差を持つ黒部川を有する黒部峡谷。世紀の大事業とうたわれる黒部川第4発電所・黒部ダムはこうして始まった。

当初、掘削作業は順調に進んだが、トンネル入り口から約2600m地点に差し掛かったところで、毎秒660リットルの地下水と大量の土砂が噴出する破碎帯にぶつかり、この破碎帯突破は黒部ダム建設の中でも一番の難工事となりました。プロジェクトチームは持てる知識と経験を結集し、大勢の死傷者を出しながら7か月にわたる苦闘の末にようやく破碎帯を突破。その半年後の昭和33年5月にはついに大町トンネルが開通、資材搬入ルートが確保されると黒部ダムの建設は一気に本格化しました。

コンクリート打設作業は夜を徹して行われ、黒部ダムは驚異的なスピードでその全容を現わしていきました。そして昭和38年5月、7年の歳月と513億円の工事費、そして延べ1000万人の人手を要した壮大なプロジェクトは無事完遂されました。



黒部ダム全景



於黒部ダム



黒部平



黒部平より立山連峰を望む



大観峰より黒部ダムを望む



大観峰周辺の積雪



室堂の積雪



室堂の積雪

○ 永平寺

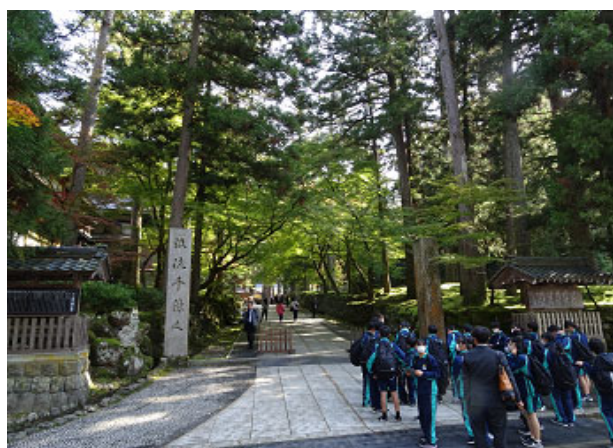
永平寺は、1244年に道元が越前の土豪波多野義重の援助によって曹洞宗のお寺として創建したもので、現在でも僧侶の修業の場として修行僧が日夜修行に励んでいる。

なお、以前は200名余ともいわれた修行僧は、現在では80名程度と激減しているとのこと。

境内は、約10万坪の広さを持ち、樹齢700年といわれる鬱蒼とした老杉に囲まれた静寂なたたずまいであり、七堂伽藍を中心とした大小70余棟の殿堂楼閣が立ち並んでいる。

この永平寺は、日本史で習うほど由緒ある有名な禅寺であるが、修行層だけでなく、観光客の減少にも歯止めがかからず、参拝者は1989年の141万人をピークに、2014年には3分の1の47万人まで減少している。

これに合わせて、土産物屋や食事処が軒を連ねる門前通りも鄙びている模様でした。



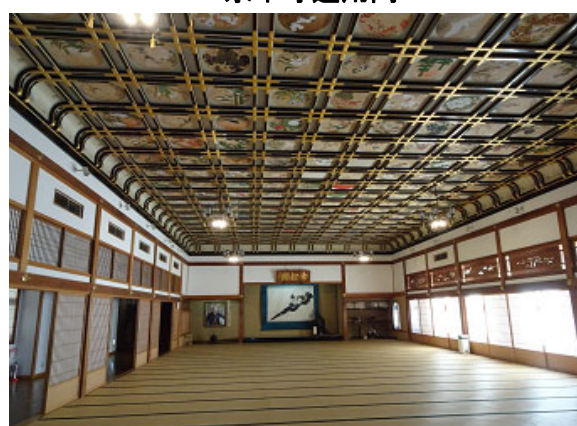
永平寺入口



永平寺通用門



永平寺全図(吉祥閣)



傘松閣(天井絵の大広間)



傘松閣は平成5年から2年かけて再建。2階は156畳の大広間で、天井絵をはじめこんである。

鳥や花を描いた230枚の絵は、144名の著名な画家によるもの。



傘松閣(天井絵の大広間)



大庫院の巨大すりこぎ



法堂へ向かう廊下



法堂(1843年改築)



法堂は、禪師様の説法の道場のこと。
一般の寺院の本堂に当たり、朝のお勤めなど各種法要がこの建物で行われます。
堂内は380畳の面積を有する。



承陽殿(1881年改装)
道元禅師のお墓です。



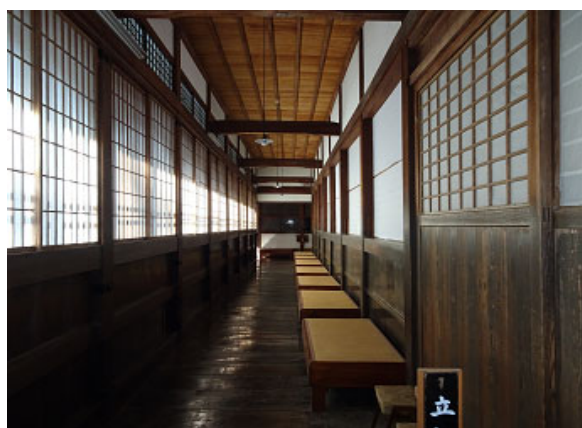
承陽殿内部



仏殿(明治35年改装)
七堂伽藍の中心に当たる建物です



仏殿



僧堂(明治35年改装)
修業を行うところで、座禅、食事、就寝を行います。





祠堂殿(昭和5年新築)
一般の方々の納骨や供養などの法要を行う。



奥は舍利殿(1863年改築)
納骨堂です。



祠堂殿



祠堂殿の大数珠(長さ18m、重さ250kg)



懇親会の状況(立山プリンスホテル)



懇親会の状況(割烹間海 福井市内)